

おか お姉ちゃんなんだ。

高畑 一応お姉ちゃんです。

おか 下の弟さんか妹さんに、お姉ちゃんにこんなやねって言われたことがあります？

高畑 お姉ちゃんって呼ばれないですよ、私。

おか なんて呼ばれます？

高畑 名前で呼ばれてます、紗依って。

おか 呼び捨て？

高畑 尊敬されてないんです。

おか 今回の作品を見ていただいたら尊敬されると思いますよ。ありがとうございました。それでは范さんよろしくお願いたします。范さんの作品はどちらにありますか？

范 銘珊 (以下：范)

和室です。

おか 和室の作品というのは、写真があったりとか、立体の作品があったりするんですけど、これはどういった作品ですか？

范 私の専攻は写真なんですけど、大学院でいろいろ他の授業を取っていました。ガラスとか染色とか彫刻とか。これはガラスの授業でつくった作品です。

おか じゃあ、立体がガラスでできてるんですか？

范 ガラスです。

おか この細々になっているのは写真？

范 そうですね、中には写真を入れています。

おか シュレッダーというかそういう状態にして？

范 下はシュレッダー、頭の中のものは手で切って。胸の中にも写真が入ってます。

おか ここにも写真が入ってるんですか？こういう写真を破ったり、シュレッダーにかけるっていうのは脳の中にある記憶をイメージされているんですか？

范 そうですね、今はデジタルの時代なんですけど、頭のところに入ってる写真は、今私たちがインターネットやSNSにあげている写真。本当の生活の記録より、より良い可愛いとか、いいところに行って写真だけ撮って帰る。こういう人に見せるための写真が今は多い。頭の中は私が撮って、アップしてみんなが「いいね！」してくれるかなと思っている写真が頭の中に見えるようにしてて。でも胸の中の写真は自分のために撮っていて。誰にも見せないつむりの写真。一番下のシュレッダーの写真はこの二年間つづった作品のリサーチを全部シュレッダーに入れたもの。

おか なるほど。そういうものを一旦消化したのもですね、写真というものを。これはなかなか面白い作品ですね。写真がこう破いている作品は、あれは家族の方ですか？

范 お父さんとお母さんです。私は一人っ子さんなんです。中国が一人っ子政策のときに生まれたんです。一人っ子になると、いろいろプレッシャーとか掛かってきます。中国は多分日本と似てます。ちっちゃい時から同じユニフォームを着て、毎日同じことをして同じ給食を食べて、みんな一緒、同じになっています。

おか いわゆる右にならえという形になっているということですか？

范 そうですね。私はちっちゃい頃からみんなとちよつと違っていました。

おか みんなと同じことをしたくなかった？

范 はい。だから自分がどういう人か知りたくて、アイデンティティとかいろいろテーマにして作品を作ってます。

おか アイデンティティというのは日本的なものとかで、よく海外なんかに行ったとき「これには日本のアイデンティティがない」なんて言われたりすることもありますけど、中国の方が日本に來られて逆に思うこともたくさんありますか？

范 例えば日本の正月は絶対に火を使えない。でも中国では必ずみんなと一緒に集まってご飯を作ります。

おか 日本って海外に旅行に行ったり最近が多いですけど、中国の人はみんな集まるっていうことですね。

范 そうですね、中国はみんな集まるのが好きです。

おか 范さんはみんなで集まるのは好きじゃないですか？

范 今は好きです。離れたら好きになったんですけど。

おか 客観的に家族というものを見たときに、こういうこともありなんだなと考えるということですね。

范 昔は義務みたいになっていましたけど、今は離れたら逆に帰りたいくなる。

おか 義務みたいなものがあるって、そういうものに縛られてることが、反感というか反骨精神みたいなものがあったけど、今現在は違う見え方もあるということですね。写真を破いているのは？

范 私はアメリカに七年住んでました。お母さんお父さんは一回しか来たことがありません。大学から卒業したときの一度だけ来てくれました。そのとき一緒に旅行に行った写真です。実はお母さんとお父さんと一緒に旅行すると毎日イライラします。昔お父さんとあまり仲が良

くなくて。一緒に旅行、しかもツアーに参加してて、毎朝四時に起きてて。

おか 四時！？

范 そうです、四時に起きてバスに一時間乗って、到着して二十分見て、一時間バスに乗って次の場所に行くっていうツアーだったんですけど、本当に参加したくないんですけど、お母さんお父さん初めて来てくれて英語も喋れなくて。ツアーも参加するしかない、行くしかない。**おか** 引率というか、お付き合いで行った訳ですね。

范 もし写真撮らないと、ずっとお母さんとお父さんのことに集中したら私は毎日喧嘩しないといけないから、あるときずっと写真撮ってて。写真撮ってるときはお母さんもお父さんも話しかけてこない。作品つくってと思うから。手段の一つとして写真を撮ってました。見せるつもりあまりなかったんですけど、今、五年くらい経って振り返ったらあのときの気持ちとか、いろいろと私のアイデンティティとか自分にも関わってて、作品にしてみました。

おか 作品化して、自分の中である意味けじめをつけるといったこともあるのかもしれないね。家族というものを題材にするというのは、なかなか勇気のいることだと思います。范さんの用意していただいた写真を見たいと思います。これはアメリカですか？



范 大学卒業した同じ専攻のみんなと一緒に撮った写真です。

おか これはアメリカのどこの州なんですか？

范 ラチェスタ、ニューヨーク州なんですけど、カナダに近くて結構寒い場所です。

おか カナダの方なんか行ったら、フランス語圏があったりしますよね。世界各国から来てたりするんですか？

范 大体がアメリカ出身でした。私が入った時はアジアの人は三人くらいしかいなかったです。今は結構増えました。

おか いいですねー。なんかこの大学の四角い帽子。なんかよく僕らの印象で投げたりするじゃないですか。卒業のときに。そんなんするんですか？

范 したかったんですけど、前の卒業生がそれでケガしてて。やめてくださいって言われました。

おか 次の写真は？



范 大学にある機材室。三年生と四年生のとき、そこでパートタイムとして働いてました。

マネージャーはちゃんと雇ってるスタッフさんですけど、学生たちもそこで働いて、機材についてもいろいろ勉強できました。

おか 日本でいう石二鳥ということで、機材のことも勉強できるし。その分、アルバイト料も安いってことですか？

范 一番低い時給でした。

おか ちなみに時給っていくらくらいですか？

范 八百円くらいかな。

おか 次の画像は？



范 これはガラスの作品をつくっているときに顔の型を取っている。顔の型を取るために五分くらい顔を中に入れないといけない。チューブは呼吸するためのチューブで、チューブが一瞬上がつて呼吸できなくて死ぬかと思いました。

おか 次、お願いします。



范 これは大学の卒業制作展です。大学で制作した作品もセルフポートレートです。二番目と四番目は私で

す。他のは私が持っている中国と繋がりがあるもの。自分と私の持っているものをオブジェクトにして距離をとって、自分がどういう人に見えるかっていう作品です。

おか この卒業制作もアメリカで？

范 アメリカです。

おか アメリカに居るときのアートの発想って、やっぱり日本に居るとときと違いますか？

范 そうですね、環境の影響もありますね。日本に来て一番気づいたことは日本の人はあまり海外に出ない。日本で満足してる。結構便利だから、なんでも手に入るから。海外はネットで見て満足してる人が多いです。でも中国の人はとりあえず海外に行きたい。

おか なるほど。中国人はワールドワイドになってきて、いろんな国行ったりしてますけど、日本人を見ているとあまり行動に移さないんだなと思う訳ですね。僕も出た方がいいと思いますね。次は？



范 これはデコルテの型を取っているときの写真で、石膏を使って型を取って